ニッキン

PHP影響、地域銀9割で
能動的にシステム停止

世界のウェブサイトで広く使われているプログラミング言語「PHP」に重大な脆弱性が発見され、国内金融機関でも10月21日、影響が広がった。大手行では三菱UFJ銀行やみずほ銀行、りそな銀行など、地域銀行では約9割におよぶ90行がホームページやウェブサービス・手続きに影響が生じた。各行は安全確保を優先し、能動的にサービスを停止。10月26日時点で、サービスを再開していない銀行もある。専門家は次の緊急事態に備え、経営陣主導で迅速にシステム停止の判断ができる体制づくりを呼びかける。

インターネットバンキングを一時的に止めたのは三菱UFJ銀のほか、青森みちのく銀行、七十七銀行、足利銀行、静岡銀行、京都銀行、山陰合同銀行、鹿児島銀行、宮崎太陽銀行など。一部は10月22日中に再開した。肥後銀行は法人向けポータルサイトなどを止めたが、笠原慶久頭取は「クレームはなく、顧客からの理解は得られた。被害拡大を防ぐため『止める勇気』も必要」と話した。

AI（人工知能）は認識されていない脆弱性を探し出すと言われ、今後も悪用した攻撃が懸念される。NTTデータ経営研究所の大野博堂氏は「経営陣がシステム停止の判断を現場任せにしないことが重要。速やかに停止を判断するための手続きや手順を整える必要がある」と指摘している。

多くの金融機関のウェブサービスなどに影響が広がった

PHP対応のため、一部のサービスを停止した主な金融機関

三菱UFJ銀	投資信託口座開設、NISA利用申込、投資信託、公共債口座保有の場合の住所変更、iDeCo申し込みフォーム
静岡銀	ホームページ、しずぎんアプリ
西日本シティ銀	ホームページ、WEBサービスの一部
京都銀	来店予約、京銀アプリ、京銀ダイレクトバンキング「手続き（紛失届、住所変更など）」、住宅ローン、消費者ローン、カードローンの申し込み
八十二長野銀	かん太くんカードの申し込み、セミナーの申し込み、八十二長野BigAdvance

（注）サービスを再開した先も含む

日本金融通信社が記事利用を許諾しています
ニッキン 2026年10月30日号3面